

福島県 中学校長会 広報

- ・会長挨拶「復興に向けた着実な歩みを」... 1
- ・学校教育の今日的課題「学校力の向上」... 2
- ・平成28年度県中学校長会の歩みと成果 ... 3
- ・専門部会活動の概要(行財政部会・研究部会・進路指導部会・生徒指導部会・広報部会) ... 4~6
- ・小・中学校合同理事会報告、中学校理事会報告、県研究協議会いわき大会の概要 ... 6~7
- ・平成29年度中学校長会主要行事予定 ... 7
- ・支会情報と特色ある経営(岩瀬・耶麻・向沼・双葉) ... 8~11
- ・随想「感謝の心と生きる力をいただきました」... 12



平成28年度を振り返って ～復興に向けた着実な歩みを～

福島県中学校長会長 福地 憲司
(福島市立福島第四中学校)

震災後6年を経過するも、再開が叶わない臨時休業や避難先に移転しての再開などの中学校が未だ13校ある。徐々に明るい兆しも見られるようになってきてはいるものの、教育の復興に向けた道のりはまだまだ遠く、依然厳しい状況のままであると言わざるを得ない。

そのような中、様々な状況下にある各学校の実態を踏まえ、「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決という基本方針」の基に、各専門部会を中心としながら充実した活動を展開することができた。

とりわけ心に残った二つを記載する。

1 第44回福島県中学校長会研究協議会

共通主題に基づく県単独としての研究協議会としては実に9年ぶりの開催であった第44回福島県中学校長会研究協議会いわき大会では大きな成果を収めることができた。

平成19年度の研究主題は「未来を切り拓く心豊かでたくましい日本人を育てる中学校教育」、平成28年度の研究主題は「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」であった。この間で「生き抜く」ことが、クローズアップされたことになるが、東日本大震災及び原発事故の体験は、私達に「生き抜く」ことの意味をあらためて問い質すことになった。非日常的、想定外の事象や社会生活・職業生活上の様々な困難に直面しても、諦めることなく、状況を主体的かつ的確に判断し臨機応変に行動する力やコミュニケーション力などが必要なのだということをあらためて浮き彫りにさせられたと思えてならない。

このことから、校長会として、子供達に、いわば「自立」と「協働」に向けた力をつけることの「必要性」を共有し、全会員がこのことを実感しながら、しっかりと確認・発信し合えたこと、大きな意義があった。

あらためて、万般にわたり企画、準備等にご尽力をいただいた実行委員会の皆様、いわき支会の校長先生方に対し、衷心より御礼と感謝を申し上げたい。

2 第66回東北地区中学校長会研究協議会宮城大会(兼第67回全日中研究協議会宮城大会)

本研究協議会に先んじて、6月16日・17日と、第1回東北中学校長会の副会長会と理事会が行われた。その中で東北の宣言・決議をどうするかという議論が交わされた。これまでの「一 東日本大震災からの復興、とりわけ教育活動の正常化と今後の充実に向け、東北6県の連携・協力を一層強化する」から「一 東日本大震災及び原発事故からの復興、とりわけ教育活動の正常化と今後の充実に向け、東北6県の連携・協力を一層強化する」への変更の件であった。小野田敏之理事の福島での未だ厳しい現状と自校の復興教育についての報告に、満場一致で「原発事故」の文言の付加が認められた。福島県にとっては極めて大きい意義のある発言であり、「風化」させない意図の強い表明であったと捉えている。

大熊中学校の小野田敏之校長先生はじめ、未だ苦しい状況下に置かれている各支会員、支えるすべての校長会員に敬意と感謝を表したい。

各専門部会はそれぞれの計画に則り、着実な成果をあげている。要望活動、調査、研究の深化・拡充、進路指導の積極的な推進、不登校やいじめ・反社会的行動等の解決や未然防止、広報活動の充実、関係団体との連携等々、その実践は知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した子供達の育成に大きく寄与するものである。

震災後6年...

あらためて「学校は復興のシンボルであり、活力源である」ことを再認識し、今後もしっかりと地に足を付けた着実な歩みを進めていかなければならないと感じたし、「風化を防ぎ、校長会として何を発信していくか」もあらためて考えたいとも感じた1年であった。

最後に、会員皆様のご尽力により、この1年、着実に歩を進めることができたことに御礼申し上げますとともに、3月末をもってご退職される校長先生方のご功績に重ねて感謝申し上げます。

学校教育の今日的課題



—学校力の向上—

福島県中学校長会副会長 面川 三雄
(白河市立白河第二中学校)

次期学習指導要領が中学校では平成33年度から全面実施となり、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」が取りまとめられました。

審議のまとめは、2030年の社会と、そして更にその先の豊かな未来において、子供たちがよりよい人生とよりよい社会を築いていくために、教育課程を通じて初等中等教育が果たすべき役割を示すことを意図しています。情報化やグローバル化、人工知能の急速な進化等、予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となるために学校教育は何を準備しなければならないのだろうか。

「チームとしての学校」も求められています。

こうした現状の中において「学校力」の向上が大切と思われます。学校力を「学校という組織の力」と考えていくと、学校の弱点を克服し、特色を発揮し、さらに向上発展させていく力であり、子どもが力をつけて伸びていく学校、教師が自己を磨き指導力を向上させていく学校、保護者や地域が信頼し、魅力的だと思える学校となります。

「子どもに学力がつく学校」
「子どもが楽しく通える学校」
「子どもの安心・安全が保障される学校」
「切磋琢磨しながら教師が伸びる学校」
「教師自身が自信と誇りを持てる学校」
「保護者が子どもを通わせたいと思う学校」
「地域が積極的に協力したいと思う学校」

このような学校をつくり上げていくのは、とりもなおさず教師の力であることはいまでもありません。

従って、学校力の向上のためには「教師力」ということを考えていかなければならないと思います。

「教師力」とは具体的に何を指すのか。これも様々な考え方がありますが、まずは「指導力」ということが中心に考えられます。授業を中心とした教科指導の力、生徒理解や生徒指導に関する力、授業以外の力として部活動や生徒会活動等における指導力など。また、校務分掌や学年、教科等の経営・指導の力も必要であります。

教師は人を相手にする仕事です。人を変えるにはまず自分が変わらなければならないという言葉もあります。教師自身が自分の力を磨き育てていくことを忘れてはならないと思います。

「教師力」を磨き、その教師集団が組織として機能することで「学校力」の向上が図られます。「学校力」の向上が子どもたち一人一人に生きて働く力、いわゆる生きる力としての「人間力」を育てていくこととなります。

学校教育の主役は子どもであり、その子どもたちに確かな力を身に付けさせるのは教師の大きな仕事です。しかし、家庭や地域、関係機関との良好な連携と協力は成り立ちません。

「信なくんば立たず」、教育の成立は信頼関係なくしては成り立ちません。

子どもと教師の信頼関係、教師と保護者の信頼関係、教職員同士の信頼関係、校長をはじめとする教職員集団と地域住民、関係機関との信頼関係等々、相互の信頼関係、信頼されるに値する日常の実践が肝要です。

信頼関係は教師の言動であり、日常の実践に他なりません。

2030年の社会を見通したとき、様々な学校課題があげられますが、不易の部分を再確認し、教師と子ども、保護者との信頼関係が成り立つ教育活動が推進できるよう校長としてのリーダーシップが求められます。

平成28年度

県中学校長会の歩みと成果



事務局長 伊藤 隆幸
(福島市立福島第一中学校)

東日本大震災及び原子力発電所事故からまる6年が経過しました。臨時休業や避難先に移転しての再開などの学校13校を含め、県内の全中学校においては、よ

りよい学校経営を目指し、現状にしっかりと向き合い、創意工夫した教育課程を編成し、充実した教育活動を展開し、豊かでたくましい生徒の育成に向けて鋭意努力しています。しかし、在籍生徒数の減少、再開後の生徒数の確保等の大きな課題もあり、今後、校長会はもとより各関係機関との連携も図りながら課題解決に向け、取り組んでいく必要があります。

さて、本県の学校教育が当面する課題としては、学校再開、心身の健康、放射線教育・防災教育等の推進、新たな教育制度への対応など多岐にわたります。また、学力の向上、不登校生徒の減少などへも継続的に取り組まなければなりません。

そのような中において、本校長会の運営については、「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決」という基本方針の基に、各専門部会を中心に充実した活動や各支会での現状を踏まえた積極的な取組を展開することができました。

今後も、校長は「学校は、復興のシンボルであり、復興の活力源である」ことを肝に銘じ、学校経営の最高責任者としてのリーダーシップを発揮し、教育課程の編成・実施と教育環境の整備を図りながら、子供たちに「生き抜く力」を身に付けさせなければなりません。

各専門部におきましては、各専門部会長、各支会専門部会長、そして、各専門部幹事のご尽力によりまして、充実した活動が展開され、大きな成果を収めることができました。

専門部会の活動概要

(1) 行財政部会

「大震災・原発事故の影響に係る調査」を含む当面する重要課題について調査研究を行い、集計・分析の結果を基に、県人事委員会、県議会各派及び各市町村長と市町村教育長への要望活動を実施しました。

また、小・中校長会合同の県教育庁関係者との懇談会を開催し、学力・体力の向上、心のケアと教育相談体制の充実、避難区域の学校経営の取組等の課題について情報交換を行い、教育行政施策の一層の充実を依頼しました。

(2) 研究部会

平成27年度からの全日中の研究主題に基づき第2年次の研究を推進し、第44回福島県中学校校長会研究協議会いわき大会を開催し、校長としての学校経営力の向上に資することができました。また、その成果とともに各支会の研究の成果を研究集録として刊行しました。

(3) 進路指導部会

進路指導に関して「入学者選抜の改善要望に関する調査」「進路指導の現状と問題点」「進路状況調査」の各調査を実施し、「進路指導に関する調査集計結果」として、各学校に情報提供を行いました。また、「進路動向調査」を2回実施し、全県的な進路希望状況の把握を行いました。

(4) 生徒指導部会

「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の活用効果を把握するための調査」を含めた「震災後の生徒指導上の諸問題に関する調査」及びネット端末等の問題の状況把握のため「ネット端末利用に関する調査」を実施し、分析・考察の結果を各学校に情報提供することによって生徒指導の充実を図りました。

また、各学校からのアンケート結果を基に「生徒手帳」の改訂を行い、発行しました。

(5) 広報部会

中学校長会ホームページの管理・運営とともに、会報を年2回発行し、ホームページへの掲載等も通しながら、本会の組織・運営、事業内容、活動状況等について、広く情報を発信しました。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

県小中学校長会の活動方針を踏まえ、激しい変化にも対応しつつ、教育行財政上の課題解決に向けて組織的な対策活動に取り組んだ。

調査内容については、吟味した上で加除修正・整理統合し全体的な見直しをした。特別調査は、震災後5年以上経過したものの、復興への道のりが未だ深刻な状況であることから、継続実施した。

1 活動の重点

当面する重要課題の調査研究と課題解決
教育諸条件の整備・充実
教職員の待遇改善

2 調査研究活動

- (1) 調査 : 教職員配置等に関する調査
- (2) 調査 : 教育施策の実施状況調査
- (3) 特別調査 : 大震災・原発事故の影響に係る調査
- (4) 教職員人事の反省 : 平成28年度人事

3 要望活動

小・中の福士会長、福地会長を中心とする要望団を結成し、9月に要望活動を行った。その際、加配教員の増員やSC及びSSWの拡大配置の必要性等、活動の重点、調査結果のまとめをもとに要望活動を行った。(要望書参照)

- (1) 面談(要望内容説明)
福島県人事委員会
県議会議員政党等
- (2) 要望書届け
福島県市長会、町村長会
福島県町村議会議長会、市議会議長会
市町村教育委員会、都市教育長会、町村教育長会の代表機関等
- (3) 主な要望事項
教職員の加配について
SC及びSSWの拡大配置について
学級編制基準や教職員定数改善について
人材確保のための処遇改善について

4 教育懇談等

関係機関と懇談を行い、現状説明等を行った。

- (1) 福島県公立学校退職校長会(7月15日)
- (2) 福島県教育庁関係者(8月18日)

(行財政部会長 茅原 秀雄)

● 研究部会 ●

1 共通理解に基づく共同研究の推進

(1) 研究主題「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」を指標とした8小主題について、第1年次の研究を踏まえながら第2年次の研究を支会・学校の実態に即して推進しました。

(2) 研究主題に基づく県単独の研究協議会としては、実に9年ぶりとなる第44回福島県中学校長会研究協議会いわき大会を開催し、小主題毎の8分科会を設け、各担当支会の研究発表と協議を通し、研究の深化を図るとともに、その成果を共有することができました。

2 研究推進資料の提供、「研究集録」の刊行

(1) 研究主題に基づく調査研究の充実、資料や情報の提供を目的とし、2年次研究の取組や成果を収めた「研究集録」を刊行し、その成果を全会員で共有することができました。

(2) 県研究協議会いわき大会における各分科会の協議内容等をまとめた大会報告書を作成し、県校長会ホームページに掲載し、全会員等に広く発信することができました。

3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

東北地区中を兼ねた全日中宮城大会が仙台市で開催されました。本県から約半数の会員が参加し、全体会において教育の動向や国の施策等について情報収集に当たるとともに、各分科会では研究発表や研究協議を通して情報交換をすることができました。

4 原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の記録の累積と発信

前年度に引き続き、研究集録の中に、「ふくしまの今」を設定し、特に“双葉支会”を中心とした震災後の学校の様子など福島の実状について記録を累積するとともに、学校課題等を全会員で共有しました。

(研究部会長 小針 伸一)

● 進路指導部会 ●

本部会では、「生きる力」をはぐくむ進路指導の積極的な推進、高等学校入学者選抜方法等の改善に向けた高等学校や関係機関との連携、適正な進路指導充実のための諸調査の実施と情報提供の方針のもと活動してきました。

主な活動の概要は、以下のとおりです。

1 「生きる力」を育む進路指導の積極的な推進

各支会において、進路指導に関する情報交換や情報提供を積極的に行うとともに、部会長会においても、協議・情報交換を通して進路指導の体制や内容の改善・充実を図りました。

2 高等学校入学者選抜方法改善への対応と連携

「進路指導に関する調査」の集計結果をもとに、県立高等学校入学者選抜事務調整会議において、望ましい選抜方法や事務手続き等の改善事項について具体的な提言を行いました。

また、今年度設置された福島県立高等学校入学者選抜検討会議において、新たな選抜方法についての改訂案に対して、これまでの調査結果をもとに、課題が改善されるよう中学校長会の立場から意見を述べました。

さらに、「調査書の記載内容の統一」について改善を加え、福島県中学校長会進路指導部のホームページに掲載し、周知と実践の徹底を図りました。

3 「中学生活と進路」＜福島県版＞の編集

副読本「中学生活と進路」の部分改訂にあたり、全国版と県版の内容の整合性を図るとともに生徒の実態や生徒を取り巻く環境の変化、本県の状況に応じた内容となるよう検討を加えました。また、写真やイラスト、図版、統計資料を最新のものに差し替えるとともに、学年の扉の「私たちの先輩」掲載の本県出身者を一新いたしました。

4 進路指導に関する諸調査の実施

全県一斉の「進路希望動向調査」を年間2回実施し、福島県中学校長会進路指導部のホームページに掲載して活用を図りました。また、より実態に即した調査となるよう、平成28年度末「進路指導に関する調査」内容の改訂を行いました。

(進路指導部会長 西牧 伸弘)

● 生徒指導部会 ●

本部会では、規範意識を高める指導、震災・原発事故等にかかわる課題や当面する諸課題の実態把握と的確な対応、小学校との連携、生徒手帳の刊行の4つの活動方針を立て、活動を推進してきました。

生徒指導上の諸問題に関する調査を今年度も改良を加えて実施し、各学校の取組に生かすことができるよう資料提供を行いました。

主な活動の概要は、以下のとおりです。

1 高い規範意識と望ましい人間関係を基盤とした学習集団づくり

今年度は被災6年目に当たり、引き続き配慮を要する生徒に対して各学校において心のケアに努めました。

2 震災、原発事故等にかかわる課題、当面する諸課題の把握、解決や未然防止

教育相談体制、不登校、いじめ、反社会的問題行動、ネット端末に関わる問題

教育相談体制については顕著な変化はありませんでした。人員配置や勤務時間等の増加を教育委員会へ今後も働きかける必要があります。また、反社会的行動は減少したものの、不登校の発生には依然として歯止めがかけられませんでした。

今年度も生徒のネット端末利用状況を知るため、小学校と同じ質問項目で実態調査を行いました。その調査から、小中学校で共通実践の必要性を示すデータを提供することができました。

また、生徒指導部会では小学校長会生徒指導部と合同で県教育センター担当者からの講演会を実施し、ネット社会の現状理解と地域・PTAでの研修の在り方を学ぶことができました。

3 小学校等との連携

中学校区内の小学校、地域等との連携がさらに進められ、発達段階に即した一貫性のある基本的生活習慣づくりに効果をあげているところが増えています。また、高等学校と連携を図るなど新たな連携体制が進みました。

4 生徒手帳の編集、刊行

予定通り全中学校へのアンケートをもとに生徒手帳を編集し、刊行することができました。

(生徒指導部会長 齋藤 良一)

● 広報部会 ●

第66回総会での決議に従い、7月と3月に広報誌「福島県中学校長会広報」を発行し、本会や支会の活動紹介及び、関係団体等の活動概要の報告を行った。広報誌については、平成25年度よりホームページ上での掲載となり本年度に至る。

また、ホームページの更新・維持・管理を行い、各部会等にも次第に活用されてきている。

【会報の主な編集内容】

1 第156号（7月1日発行）

会長あいさつ (福地憲司会長)
平成28年度県中学校長会総会の概要及び組織
学校教育の今日的課題
「チームとしての学校」の実現に向けて
(鈴木一高副会長)
県中学校長会の活動と運営
(伊藤隆幸事務局長)
各専門部会活動の概要 (各専門部会長)
全日本中学校長会総会報告
支会情報と特色ある経営
福島・石川・南会津・いわき
新会員紹介・新会員の声
随想「伝えなければならないこと」
(酒井 完副会長)

2 第157号（3月1日発行）

平成28年度を振り返って (福地憲司会長)
学校教育の今日的課題「学校力の向上」
(面川三雄副会長)
県中学校長会の歩みと成果
(伊藤隆幸事務局長)
各専門部会活動の概要 (各専門部会長)
県小・中合同理事会報告、県中学校理事会報告
県研究協議会いわき大会の概要
平成29年度主要行事予定 [県、東北・全日中]
平成29年度東北地区中研究協議会の概要
支会情報と特色ある経営
岩瀬・耶麻・両沼・双葉
随想「感謝の心と生きる力をいただきました」
(小野田敏之副会長)
(広報部会長 佐藤 浩子)

● 小・中学校合同理事会報告 ●

本年度最後の小・中学校合同理事会が2月22日(水)に飯坂あづま荘で開催されました。

議長：菅野藤雄（小） 佐藤和彦（中） 常任理事

【報告】

- 1 平成28年度退職役員感謝状贈呈式の件
- 2 平成28年度退職役員感謝会の件
- 3 小学校長会と中学校長会との合意事項の件

【協議】

- 1 平成29年度県小・中学校長会合同開会式並びに小中理事会、総会の運営について
期日：平成29年4月19日(水)
会場：福島県教育会館
- 2 平成29年度主要行事について
- 3 平成29年度教職員人事の反省について
- 4 平成29年度行財政部（会）の調査について
上記案件について提案の通り承認されました。
退職役員感謝状贈呈式
退職役員は、小学校24名、中学校23名で、林宗一郎小学校長会長代行、福地憲司中学校長会長より感謝状が手渡されました。

● 中学校理事会報告 ●

第5回中学校長会理事会は、2月22日(水)・23日(木)の両日にわたり、飯坂あづま荘で開催されました。

【報告】

- 1 全日中理事会の件
- 2 平成28年度会務・会議報告の件
- 3 県中学校長会共催、後援承認行事の件

【協議】

- 1 平成28年事業報告について
- 2 平成28年度会計執行状況について
- 3 平成28年度関係団体との連携について
- 4 平成29年度事業計画（案）について
- 5 平成29年度中学校長会行事予定（案）について
- 6 平成29年度会計予算（案）について
- 7 平成29年度第1回理事会の運営について
- 8 平成29年度第67回総会の運営について
上記案件について、提案の通り了承されました。

● 県研究協議会いわき大会の概要 ●

第44回福島県中学校長会研究協議会いわき大会が、10月14日(金)スパリゾートハワイアンズで開催されました。隔年で開催の研究協議会も平成19年度に二本松大会が開催されて以来、平成21年度は郡山での全日中福島大会、平成23年度は震災のため中止、翌年24年度は特別研究協議会として会津で実施、平成26年度は福島で東北地区中福島大会という経緯から、福島県単独で開催されるのは、実に9年ぶりとなりました。

今年度は研究主題「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」に基づく第二年次の研究でした。

開会式では、福地憲司会長より「校長会として、学校が復興のシンボルであると謳う以上は、生徒に復興を担う力をつけなくてはならず、本研究協議会で得られた成果を各学校の運営に生かすことが生徒に『生き抜く力』を育成することになり、それが復興を担う力となる」との本研究協議会の意義を確認しました。続いて、いわき大会の松本伸一実行委員長、福島県教育委員会鈴木淳一教育長、いわき市教育委員会吉田 尚教育長よりあいさつを、そして、開催市のいわき市長 清水敏男様よりご祝辞をいただきました。

開会式後、「人間力を引き出し、育むためには」との演題で常磐共同ガス株式会社代表取締役社長猪狩謙二氏による講演会がありました。平成23年3月の東日本大震災直後に社長に就任し、震災の復旧復興に向けての会社経営、会社も人を育てること、そして、地域に貢献することが大切だという信念をもち、会社経営にあたる生き様は人を育てる私たち校長にとってたいへん参考となる中身の濃い講演会でした。

午後からの研究協議会では、8つの研究小主題に基づいた分科会において、各発表支会の質の高い研究発表と熱心な研究協議を通して、生徒のこれからの社会を生き抜く力の育成に向け、校長としての在り方、覚悟を確認できた実り多い研究協議会となりました。9年ぶりの県単独開催の本大会は、今後の県中学校長会研究協議会の持ち方、在り方に関してスタンダードになる大会でした。

(庶務 大越 一也)

平成29年度中学校長会主要行事予定

[県、東北地区中、全日中関係]

月	日	県 関 係	東北地区中・全日中関係
4	11 19	合同事務局会 総会・理事会	
5	16 19 22 23 24 29 30	行財政部合同部会長会 研究部会長会 合同事務局会 生徒指導部会長会 進路指導部会長会	全日中理事 全日中第68回総会(～25)
6	2 9 29	合同理事会・理事会	東北地区中副会長会 東北地区中理事会 東北地区中岩手大会(～30)
7	13	行財政部合同代表部会長会 ・広報第158号発行	
8	1 17	合同事務局会 合同理事会・理事会 ・70年史発行	
9		・要望活動	
10	18 19 26	進路指導部会長会	東北地区中臨時副会長会 全日中理事会 全日中東京大会(～20)
11	14 15 16	生徒指導合同部会長会 研究部会長会 合同事務局会	
12	5	合同理事会・理事会	
1	18 19 25 29	研究部代表部会長会 進路指導部代表部会長会 生徒指導代表部会長会	全日中理事会
2	1 2 6 20 22	行財政部合同部会長会 合同事務局会 合同理事会・理事会(～21)	東北地区中副会長会・理事 会・事務局会 全日中事務担当者会(～23)
3	15	・広報第159号発行 会計監査	

● 平成29年度東北地区中研究協議会の概要 ●

1 大会主題

『社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育』

2 期 日

平成29年6月29日(木)・30日(金)

第1日目：「開会式」「全日中報告」

第2日目：「研究協議会(分科会)」「記念講演」「閉会行事」

3 会 場

花巻温泉「ホテル千秋閣」他

4 記念講演

講師：三宅 民夫 氏 (NHKアナウンサー)

支会情報と特色ある経営

岩瀬

岩瀬支会の活動



岩瀬支会長 森合 義衛
(須賀川市立第一中学校)

本支会は、須賀川市10校、鏡石町1校、天栄村2校の3市町村の計13校の中学校長で組織し活動しています。

今年度は、転入1名、新任3名の4名を新しいメンバーとして迎え、情報交換を密にしながら、校長職としての在り方を模索し、各学校の学校経営の充実や教育課題の解決を目指して、諸会議や事業を実施してきました。

地区小学校長会22名とともに「岩瀬地区小・中学校長協議会」を組織して、各種会合や事業を展開しています。この1年を振り返りながら、主な活動を紹介させていただきます。

(1) 小・中学校長協議会（総会を含め5回）

全体会での各専門部会活動と情報共有、小中学校別会議での協議を実施しました。

(2) 学校経営研究会（2回）

第1回目は県中教育事務所長の歌川哲由様の教育講演会と先輩校長（退職予定者）からの体験発表に学びました。第2回目は、天栄村教育長の増子清一様の講話、先輩校長からの体験発表に学ぶとともに、松崎酒造を見学し、企業の経営戦略を実地研修しました。

(3) 退職校長会・現職校長会研修会

須賀川後藤新平の会会長の菊地大介様から「後藤新平と須賀川」について講話をいただき研修を深めた後、懇親会で和やかに懇談しました。

(4) 中高連絡協議会（2回）

地区内高等学校長6名と中学校長13名での生徒指導及び進路指導に関する情報交換を行いました。

(5) 校長会補導（2回）

夏季休業と冬季休業中に中学校区単位で小中学校長合同で学区内の危険箇所の点検や遊興施設等での補導を実施しました。

その他、中体連・中教研等の各種行事の実施・運営においても、「岩瀬は一枚岩」を合い言葉に支会全員が一致協力して、活動しています。

《学校紹介》

「つなぐ教育」の充実をめざして

天栄村立天栄中学校

天栄村では平成17年度に「学力向上パートナーシップ事業」、平成25年度には「つなぐ教育」の指定を受け、以来村内2つの中学校と4つの小学校、1つの幼稚園で「つなぐ教育」を実践しています。「学校と学校をつなぐ」「学校と家庭をつなぐ」「学校と地域をつなぐ」「子どもと子どもをつなぐ」という理念の下、様々な実践を行っています。代表的な取組の一つに、夏休み中の4日間、村内の小学6年生全員が天栄中学校に集まり、学習会を行う「サマースクールてんえい」（写真）があります。小・中学校の教員がTTを組み45分間の授業を12コマ行います。中学生もスモールティーチャーとして参加し、小学生の学習の支援を行います。この活動を通して小学生は交流を深め、中学校生活を理解し中1ギャップの解消に役立っています。また、小・中学校の教員同士は授業を通して、相互理解を深めています。



平成29年度は「英語の村づくり」の一環として全校で英会話レッスンに取り組むとともに、ブリティッシュヒルズの活用や外国の方々の訪問など英語を使った活動の充実を図っていくこととなります。小学校の来るべき外国語の導入に備えるとともに英語活動を通して、ますます教職員間の交流を促進し、より良い小中連携を深めていくこととなります。

また、天栄中は創立50周年を迎え、節目の大切な年となります。次の50年にふさわしい教育が行われるよう、全教職員一丸となつてがんばっています。
(校長 佐浦 雅明)

耶麻

耶麻支会の活動



耶麻支会長 長谷川良三
(喜多方市立第一中学校)

耶麻支会は喜多方市、西会津町、北塩原村の3市町村計10校で組織されています。他支会同様耶麻支会も急激な生徒数の減によりい

ろいろな面で活動に支障が出てきています。それでも中教研では、隣接する両沼支会との教科による合同開催、中体連の各種大会では他校との合同チームでの参加や種目による全会津一本化による実施等、さまざまな工夫しながら活気を失うことのないよう努力してきました。

普段耶麻支会では管内の小学校20校で組織する耶麻地区小学校長会と連携し、『耶麻地区小中学校長会連絡協議会』を組織して一体となって活動しています。今年度は『連携を深めながら、共通理解に支えられた切磋琢磨する耶麻校長会』のスローガンのもと以下の5つの視点から年間4回の研修に取り組んできました。

- (1) 学力向上
- (2) 小・中の連携強化
- (3) 人材育成
- (4) 特別支援教育の充実
- (5) 人事評価の円滑実施

特に第2回研修会では八ツ橋設備株式会社専務取締役、安部井省治氏を講師に迎え「人材育成と組織力強化について」の演題で講話をいただき、「人を育てること」「組織を活かすこと」「評価の重要性」について研修を深めることができ大変充実した活動が出来たと思います。

また、今年度の県研究大会いわき大会で第1小主題『生きる力』を育成する教育課程の編成・実施・評価について、学校や地域の特色を生かした教育活動やさまざまな教育プログラムを活用した教育実践について発表させていただきました。各校の実践を校長の学校経営の立場から改めて評価してみる大変良い機会となりました。

平成29年度には東北地区中学校長会研究協議会で第2分科会『教育課程』についての発表を担当することになっています。現在これまでの研究を整理し、『評価』の視点から発表に向けた準備に取り掛かっているところです。

《学校紹介》

アントレプレナーシップ学習

西会津町立西会津中学校

本校では平成19年度より、総合的な学習の時間を活用して、アントレプレナーシップ学習(起業教育)に取り組んでいます。

平成27年1月30日に行われた「アントレプレナーシップスクール」(当時2年生)の経験を踏まえ、3年生を対象に平成28年9月13日・14日の2日間にわたり、「西会津アントレプレナーシップ2016」を実施しました。

(1) 4つのテーマ

資源を活かした、しごとづくり、磨き上げる町(農業・林業・加工業・販売業・観光業など)

地域力を活かし、人に選ばれる町(観光・飲食施設・販売施設・居住など)

人を育み活かす町(教育・結婚・出産・子育てなど)

安全・安心なまちづくり(医療・福祉・居住・雪対策・コミュニティ・エネルギーなど)

(2) 授業の流れ

気づく「アイデアを学ぶ」「地域資源に気づく」

形にする「起こしたい変化を考える」

「アイデアを考えてみる」「アイデアを絞る」

「アイデアを磨く」
伝える「発表練習」「発表(予選大会)」「最終発表とまとめ」

【発表のゴール】

4つの柱(テーマ)において、地域資源の魅力・課題に気づき、そこから新しい未来が切り拓かれるアイデアを形にし、伝えることに挑戦する。

(3) 成果

生徒は、西会津に対する理解や積極的に関わりようとする気持ちが高まっています。



(校長 五十嵐正彦)

両 沼

両沼支会の活動



両沼支会長 野内 昭
(会津美里町立高田中学校)

今年度『笑顔と感謝と優しい言葉』のスローガンのもと活動を開始しました両沼支会は、河沼郡の会津坂下町、湯川村、柳津町

の3町村4校、大沼郡の会津美里町、三島町、金山町、昭和村の4町村6校、計7町村10校(10人)で組織しています。

冒頭のスローガンは、第1回の両沼小・中学校長会全体会で提案したもので、我々校長は、教頭をはじめ教職員に対して、「感謝」の気持ちを持ち、「笑顔」と「優しい言葉」で接したり話しかけたりすることが大切だとの思いからです。

さて、本支会では例年春の総会、年3回の定例会、年2回の研修会、夏には退職・現職校長会懇談会を行っています。今年度の特色ある取組は、次の2点です。

1 学力向上について

各地区、各中学校区で小・中連携の一つとして(基礎)学力向上推進委員会を組織し、それぞれの実態に応じた取組をしています。そこで今年度、両沼支会として小5・6と中学校をつなぐ家庭学習の在り方 - できれば小6の家庭学習で「予習」を意識させる取組をお願いし、各中学校区で実践しているところです。

2 体力向上について

両沼地区児童生徒の体力向上と肥満傾向改善のための取組として、両沼小学校長会が会津短大の渡部先生と連携して取り組んでいる「体組成」の測定を、中学校でも3校が取り組みました。第2回の校長会の研修として我々校長も測定してみました。自分の身体の状態が把握できるので、改善のための意欲が湧いてくるのではないかと実感しました。

以上2点の取組の成果については、今後のそれぞれの結果に待たれるところですが、継続することにより期待できると確信しています。

《学校紹介》

未来のことを語り合おう

柳津町立西山中学校

「Let's Talk About Our Future ~未来のことを語り合おう~」をテーマに、スタンフォード大、オクスフォード大、UCサンディエゴ校といった名だたる大学の学生を招いてセミナーを開催しました。

西山中学校は全校生12名。学校がある柳津町は過疎が限界に近いところまで進行している少子高齢化の典型ともいえる地域です。

柳津町をはじめ、奥会津地域は少子高齢化、過疎の進行という、ある意味『世界最先端の地域課題の宝庫』であり、これらの課題に積極的にかかわることは、この地域に住み、未来を生きる子どもたちにはぜひ必要なことと考えています。冒頭のセミナーは、これらの問題を自分たちのこととして考えられるようにすると共に、海外ではこの問題をどのようにとらえ、取り組まれているかを知るといふねらいもありました。せっかくの機会でもあるので、近隣の中学校、高校にも参加を呼びかけました。

セミナーでは、基調発表としてかねてより実践している本校のアントレプレナーシップ育成教育「西山中学校における地域活性化の取り組み」を発表し、それを受けて他校や海外の大学生からも多くの意見が出されました。緊張している様子も窺えましたが、有意義な会にすることができたと思います。

成果として、身近なところでも、地球全体につながるような大きな課題があることに気づいたこと、行動化・実践化をめざす話し合いを、地域の中高生が一堂に会して語り合えたことがあげられます。

加えて、海外の大学生を交えたセミナーを、本地区のような過疎地域で開催できた意義は大きいものがあります。ここでの経験は、子どもたちの今後の成長の大きな糧になると考えています。



(校長 高橋 弘悦)

双葉 ふるさとの復興・再生・創生のために



双葉支会長 小野田敏之
(大熊町立大熊中学校)

双葉支会は、双葉郡内の8町村、全11中学校で成り立っています。東日本大震災とその後の原発事故から6年が経とうとしている現

在、再開を果たしているのは9校。うち2校は帰還し、ここ数年での帰還が見えてきた学校、まだ見えない学校、そして、休校状態からの再開を目指す学校とに分かれています。

再開している学校の多くは、入学者の減少により学校の存続さえ危ぶまれる状況の中で、少人数のよさを最大限に生かした教育活動を工夫し、教職員が一致協力して指導に当たっています。

そのような中で2年前、双葉郡内の各小中学校は「ふるさと創造学」をスタートさせました。

この学習は、自分たちのふるさとへの理解を深めるとともに、生徒自身やふるさとの人々が、よりよく生活できるようにするための課題、ふるさとの復興、再生のための課題を自らが見つけ、情報を収集・整理、分析・考察できるようにするなど、探求的、問題解決的な学習の方法を身に付けさせながら、ふるさとの復興・再生・創生に役立つことのできる人材の育成を目指す学習です。

郡山ビッグパレット等を会場に、双葉郡内の小中学生が参集し、学習成果を発表し合う「ふるさと創造学サミット」をったり、双葉郡復興ビジョン推進協議会主催の教職員研修に参加したりしながら、学習の充実を目指してきました。

また、県内各地に散らばる学校を繋ぐ中高交流会、テレビ会議システムを活用した生徒会交流会や英語学習など、困難をチャンスに変えたいと、いろいろな取組に挑戦しています。

双葉の子どもたちに、どのような教育をすることが双葉郡中学校長会としての務めなのか、郡内教育長会や関係機関と力を合わせ、考え、話し合い、取り組んでいきたいと考えています。

《学校紹介》

感謝の心とわくわく感を持ちながら

浪江町立浪江中学校

本校は震災後、二本松市立旧針道小学校をお借りして再開しています。多くのご支援に感謝の気持ちでいっぱいです。本校では生徒一人一人に寄り添うとともに、浪江町内再開校につなげることも見据えながら、下記【本校教職員の「な・み・え」】を共有し、チーム力の向上に努めています。

「な」：難局を乗り越える気概と指導力（生徒を思い、強い意志を伴った自己研鑽）
「み」：魅力ある未来を思い描く想像力・創造力（わくわく感の共有と協働）
「え」：英気と笑顔あふれる人間性（信頼に基づく連携・協力、組織力の発揮）

また、双葉郡全体で取り組んでいる「ふるさと創造学」では次のようなコンセプトを基に、地域の復興につなげようと取り組んでいます。

Na : Native, Nationwide 地元を見つめ、全国的（国際的）な広い視野も持ちながら（人・もの・ことと関わり）
Mi : Mission, Mind（それらを基に、復興への）ミッションや心意気を
E : Express, Enlighten, Encourage 表現し、伝え、（未来へ向け、みんなを）勇気づける



3年生「浪江中成長物語」紙芝居の制作と発表
(於・仮設住宅訪問時・「ふるさと創造学サミット」)

3年生はこれまでの想いを詞に込め、歌「未来の光へ」を作りました。(作曲：本校音楽科教員)

うつむいてしまう日も 強い気持ちを忘れず 歩んでく
大切な思い出 胸に秘め 絶対 忘れない
大きな翼広げて さあ今こそ飛び立とう
遙かな空を駆け抜けて
さあ一緒に明日の光を探しに行こう
真っ暗な世界に一筋の光 未来への扉へ 走りだそう
僕らが挑む壁は高いけど
諦めなければ 願いは叶う 必ず (2番の歌詞)

「感謝」を胸に、未来を志向し、わくわく感を持ちながら毎日の教育活動を進めています。

(校長 笠井 淳一)

私の故郷は、双葉町です。故郷を離れて六年。間もなく七年目に入ります。震災の次の日に家を出てから、年に数回の「一時帰宅」を除いては、町に帰ることもありません。私は、南相馬市石神中で震災に遭い、その後会津の大熊中に転任しました。家族は、双葉町を出てから、川俣、浅川、南会津町田島松の下、田島後原甲と避難先を変え、現在は会津若松にお世話になっています。

この間、実にいろいろなことがありました。そして、避難した先々で、多くの方に温かくしていただきました。思い出すままに書いてみます。

震災の年、秋まで生活した田島の集会所。区長さんを始め地域の方々、手作りの郷土料理を持って来てくださいました。小学校の卒業式ができなかった娘の卒業式を家族と友人で行った集会所です。コツコツ貯めてこられたのでしょう、おばあさんからいただいた商店街スタンプは使えませんでした。南会津町役場では、簡易風呂を駐車場に設置してくださいました。避難所では勉強もできないだろうと「私の家の部屋を使ってください」と声をかけてくださった先生。

二人の子は、町内の中学校と若松市内の高校に入学し、友人にも恵まれ、卒業しました。

大熊中学校も、会津の皆さんに温かく迎えられ、励ましていただいています。会津若松市教委、校長会はもちろん、仮設校舎の建つ一箕地区の方々や会津大学の皆さんにも。

毎朝、本校入り口で交通指導をし、声をかけてくださる一箕地区の方々。「校長を励ます会」を何度開いていただいたでしょう。卒業式の朝、校舎玄関前のお宅の窓に掲げられた「祝御卒業」の大きな文字。頑張っている子どもたちや先生方に元気になってもらいたいと差し入れを持って来てくださる地区の方。去年の中体連駅伝大会では、周回遅れの本校チームを、会場にいた会津の中学生が全員で応援してくれました。感激でした。

全国各地から、そして国外からも励ましをいただきました。ファイルに綴じてきた支援の記録は、

現在5冊目になります。

毎年、本と励ましのお手紙をくださる小山明子さん(故大島渚監督の奥様)。「会津の冬は寒さが応えるでしょう」と、本校生徒全員の手袋を編んでくださった九州の御婦人。学習を応援して下さる企業の皆さん、大学生、先生方。そういえば、本校生徒の手紙を読んでアメリカ行きをキャンセルし、卒業式に来てくれたA Iさん。あの曲「Story」は忘れません。毎年、卒業式の日、卒業生に花を贈ってくださる滋賀県にお住まいの女性。名前も知らない、お会いしたこともない方からの心温まるお手紙…。芥川賞作家の柳美里さん、浜中順子さん、水野丈夫先生、谷川彰英先生、綾瀬はるかさん...ありがとうございました。

ここに書きながら、書ききれなかったことが次々に思い出されてきます。きっと、県内外の様々な土地で、たくさんの物語が生まれました。これほどたくさんの励ましをいただいていた私たちが、これからはなければいけないことは一体どんなことでしょうか。

私は、周りの人たちに感謝の心と生きる力をいただきました。あの時、家族には、生きてここにいてくれてありがとう、そう思いました。子どもたち、保護者の皆さんも、生きてここに来てくれてありがとう。友だちも、先生方も、みんな…。そして、その後多くの方々からいただいた温かな励ましが、私を支えてくれました。感謝の思いでいっぱいです。この思いに支えられて今日まで何とか頑張ってくることができたのだと思っています。

最後になりましたが、未だ避難を余儀なくされている小・中学校の子どもたちや保護者を始め、多くの人たちを温かく受け入れてくださり、励まし、御指導いただいている県内各支会の校長先生方、並びに先生方に、この「随想」の場をお借りして、心より感謝と御礼を申し上げます。

ありがとうございます。

随想



福島県中学校長会副会長
小野田 敏之
(大熊町立大熊中学校)

感謝の心と生きる力を
いただきました